街路樹再整備計画《素案》概要

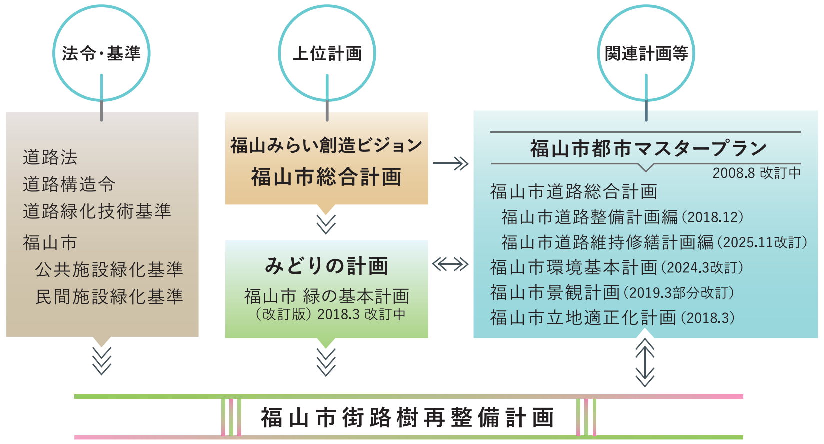
1 背景と目的

街路樹は、景観向上、環境保全、緑陰形成、交通安全、防災機能といった様々な機能を有し、これらの機能を総合的に発揮し、道路空間や地域の価値向上を図ることが求められています。本市の街路樹は、1970 年代の高度経済成長期における道路整備の進捗に合わせて都市の緑を確保するため、厳しい環境に耐え、成長が早く、緑量が見込める樹種が多く植栽され、良好な景観の形成や都市の魅力向上に貢献しています。一方で、近年は、街路樹の成長に伴う大径木化・老木化の進行により、倒木や落枝の危険性の増大、枝葉による視認性の低下、根の成長による歩道舗装の隆起など、道路空間における様々な問題が顕在化しています。こうした現状を踏まえ、道路・歩道利用における安心・安全の確保、市のさらなる魅力向上、持続可能な維持管理を行うことを目的として、「福山市街路樹再整備計画」（以下、本計画）を策定するものです。

福山市の街路樹

2 位置付け

本計画は、福山みらい創造ビジョン、福山市総合計画及びみどりの計画（改訂中）を上位計画とし、関連計画である福山市都市マスタープラン（改訂中）、福山市環境基本計画、福山市景観計画、福山市立地適正化計画等と連携、整合性を図りながら、本市における街路樹の再整備・管理に資する計画として位置づけられます。



福山市街路樹再整備計画の位置づけ

3 現状と課題

3-1 街路樹の整備状況

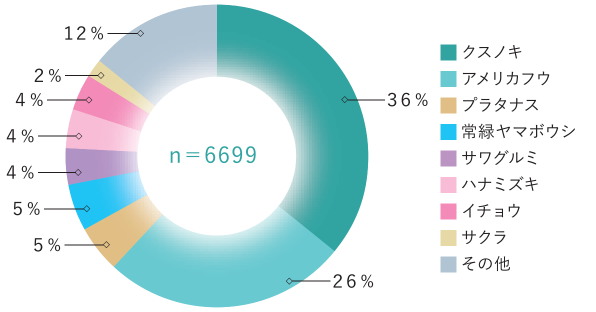
街路樹が整備されている市道は 120 路線あり、クスノキ、アメリカフウ等の高木は約6,700 本、シャリンバイ、ヒラドツツジ、アベリア等の低木は約 92,000 本（約 17,000㎡）が植栽されています。

福山市管理の
街路樹本数

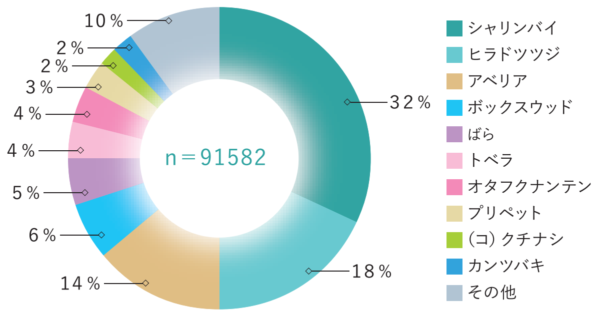
	本数
高 木	6,699本
低 木	91,582本

福山市管理の
高木樹種別本数

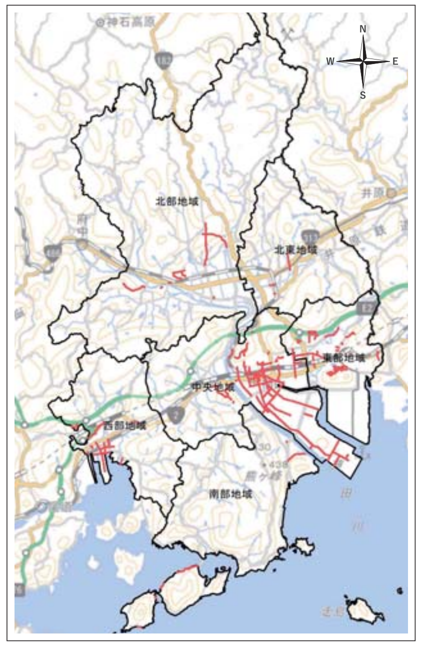
樹種	本数（本）	割合（%）
クスノキ	2,443	36
アメリカフウ	1,746	26
プラタナス	348	5
常緑ヤマボウシ	312	5
サワグルミ	301	4
ハナミズキ	299	4
イチョウ	247	4
サクラ	147	2
クロガネモチ	90	1
センダン	84	1
トウカエデ	76	1
ホルトノキ	71	1
マテバシイ	69	1
コブシ	61	1
ケヤキ	54	1
シマトネリコ	54	1
その他	297	4
計	6,699	



高木の樹種別植栽本数割合



低木の樹種別植栽本数割合



街路樹設置路線（街路樹が植栽されている市道）
地域区分（都市マスタープランにおいて設定）
街路樹整備路線の分布

3-2 街路樹の課題

植栽後 40 年以上を経て、大径木化・老木化の進行に伴い、道路空間や周辺環境との不整合や樹勢衰退・生育不良による安全面・景観面での影響が発生し、期待されている機能・役割が十分に発揮できていないことから、今後の財政状況を踏まえた適切な管理の継続が必要となっています。

道路交通や歩行者への影響

歩道有効幅員の不足

根上りによる通行支障

倒木・落枝のリスク増大

景観・環境への影響

衰退・生育不良による景観悪化

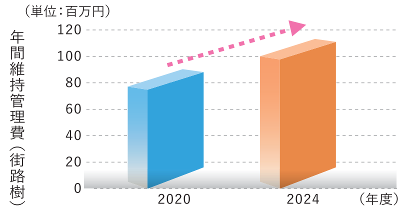
植栽間隔の過密化

周辺環境との不整合

維持管理の問題

強剪定による樹形悪化

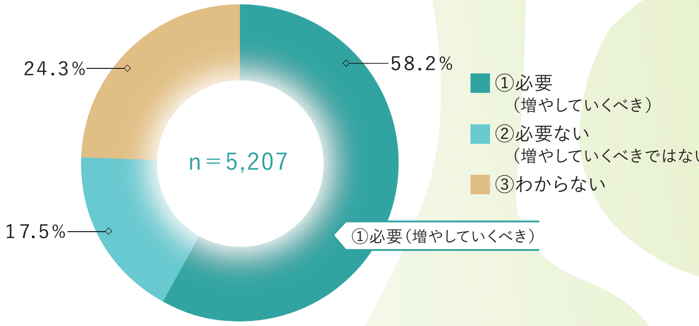
架線との競合



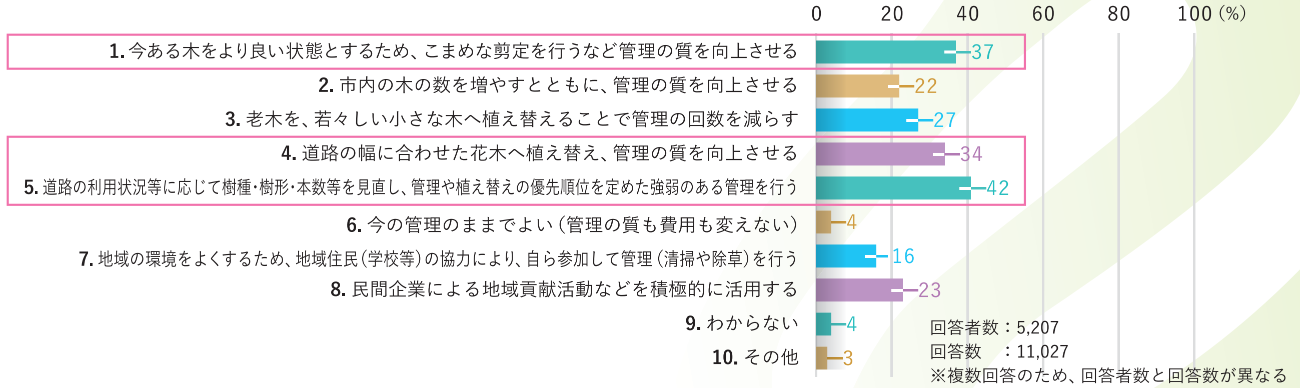
維持管理費の増加

3-3 市民の意識・意向

「街路樹に関する意識調査アンケート（2025 年（令和 7 年）8 月）」の結果、街路樹に求められる機能・効果として、景観の向上、緑陰の形成などが挙げられ、「市を代表するような緑豊かな道路」について必要（増やしていくべき）という回答が約 60% でした。一方、今後の街路樹整備・管理にあたっては、「質の向上」や「メリハリをつけた管理」が求められていることがわかりました。また、街路樹管理への参加は約 50% が参加に意欲的でした。



緑豊かな道路の必要性について



今後の街路樹再整備・管理に向けて

4 再整備方針

計画の目的、街路樹再整備の方向性、基本理念（コンセプト）を踏まえ、3つの基本方針を設定し、効率的・効果的な街路樹の再整備・管理を進めていきます。

基本理念（コンセプト）

量から質へ

街路樹の適正配置・管理による
安全で魅力ある道路空間の維持・創出

街路樹再整備の方向性

量の拡大から質的な向上への転換

•••

道路・歩道の利用における安全性の確保

•••

福山市の魅力向上に資するとともに
適切な管理を持続的に実施していく仕組みづくり

基本方針 1　安心・安全な通行空間の確保

歩行者及び車両が安心・安全に通行できる道路・歩行空間を確保します

- 狭幅員歩道の植栽撤去による適正な歩行空間の確保
- 根上りによる舗装不陸等の通行支障の解消
- 生育不良木や倒木リスクの高い樹木の撤去・植替

基本方針 2　福山らしい魅力的なまちづくり

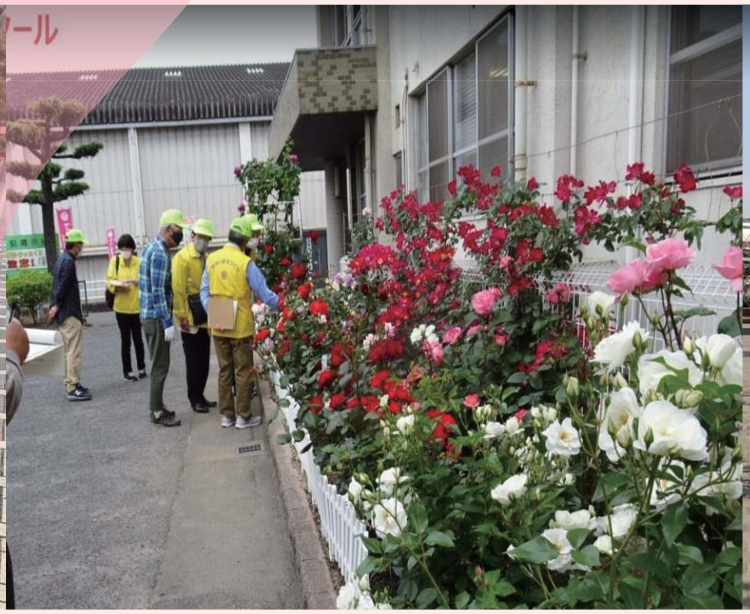
市民が誇れる福山らしい魅力的な街路樹空間の形成を目指します

- 地域特性を踏まえた道路空間の創出
- ばらや花木を用いた福山らしい魅力的な景観の形成

基本方針 3　持続可能な再整備・管理の推進

街路樹の健全な生育を維持するための再整備と適切な管理を推進します

- 健全な街路樹の育成に向けた配置整理、樹種転換
- 健全な街路樹を維持する適正管理と定期点検による予防保全
- 適正管理の持続的実施に向けた市民・企業との協働・連携体制構築



5 街路樹再整備計画

現況把握･課題整理の結果に基づき、再整備対象路線の抽出、手法･対策工の選定、再整備実施優先度の設定、適用工種の検討を行い、再整備・保全計画を策定します。

5-1 路線タイプ区分と目標設定　路線タイプ区分別に、街路樹に求められる重点機能と目標とする姿を設定します。

路線タイプ区分（案）	街路樹に求める重点機能	目標とする姿
①住宅地域の主要な道路	緑陰形成機能、交通安全機能、景観向上機能	大きい街冠と緑陰、統一感がある樹形 歩行者・沿道住民の安全と快適の確保 統一感のある整然とした景観
②住宅地域の一般道路	交通安全機能、景観向上機能	歩行者・沿道住民の安全と快適の確保 親しみを感じられる街路樹
③商業地域の主要な道路	景観向上機能（シンボルロード等）、緑陰形成機能、交通安全機能	地域のシンボルとなる樹木 大きい街冠と緑陰、統一感がある樹形 統一感のある整然とした景観 歩行者の安全と快適の確保
④商業地域の一般道路	緑陰形成機能、交通安全機能、景観向上機能	大きい街冠と緑陰、統一感がある樹形 歩行者の安全と快適の確保 統一感のある整然とした景観
⑤工業地域の道路	交通安全機能、環境保全機能、景観向上機能	歩行者の安全と快適の確保 統一感のある整然とした景観
⑥その他	交通安全機能	歩行者の安全と快適の確保

路線タイプ区分と求められる機能

目標とする姿（イメージ）：商業地域の主要な道路

5-2 路線カルテ作成　街路樹の現況を踏まえて路線カルテを作成します。

街路樹の課題						評価	
安全な構造・植栽基盤［安全］	歩道幅員不足	歩道幅員		植樹帯（桝）幅員	歩道有効幅員	評価	
		3.5m 以上 5.5m 未満、5.5m 以上		1 m 以上 1.5m 未満、1.5m 以上	3m以上 5m未満	歩道幅員不足	
	通行支障［根上り発生状況］	箇所数 /10 箇所	4 箇所数 /10 箇所	1 箇所数 /10 箇所	7 箇所数 /10 箇所	評価	
		根上り率	40%	10%	70%	通行支障	●
健全な樹木［安全］	生育不良	樹木点検結果	C･D 評価判定本数			評価	
			7 本			生育不良	
	不敵な樹種	植栽樹種				不適な樹種	
持続可能な管理［管理］	植栽樹種		ケヤキ	サクラ	アメリカフウ	評価	
	巨木化［樹高ギャップ率］	平均樹高	9.9m	3.6m	5.4m	巨木化	●
		目標樹高	5.0m	5.0m	5.0m		
		ギャップ率	197.20%	72.80%	108%		
	樹形不良	樹形評価結果	B(やや悪い)	C(悪い)	C(悪い)	樹形不良	●
	過密化［植栽間隔］	植栽間隔	6 m以上11m未満	6 m以上11m未満	6 m以上11m未満	過密化	●
		目標樹形を考慮した植栽感覚	18.0m	18.0m	18.0m		
	樹高制限	架線の有無	あり	あり	あり	樹高制限	●
再整備･保全の必要性	再整備が必要						
解消すべき課題	通行支障・巨木化・樹形不良・過密化・樹高制限の解消が必要						
優先度	中程度						

路線カルテ（再整備方針シート 抜粋）

5-3 再整備・保全対象路線の抽出・手法設定　評価基準・評価フローに基づき、再整備対象路線を抽出し、対策手法を設定します。

評価基準		評価方法：評価項目	評価方法：評価目安
安全な構造･植栽基盤 狭小な幅員や根上り等による通行支障により安全･安心な通行･歩行空間が確保できない区間		歩道有効幅員不足	歩道有効幅員 2 m 未満 （歩道幅員 - 植栽桝（帯）幅員）
		通行支障【根上り】	重大な根上り発生割合 50 % 以上 （重大な根上り発生箇所数／調査本数）
健全な樹木 過年度樹木点検において外観診断評価が低い（C、D）樹木が多い区間、もしくは倒木リスクの高い樹種が多い区間		生育不良	樹木点検結果 C･D 評価木が 20 本以上の区間（2ヶ年合計）
		不適な樹種【倒木リスク】	樹木リスクがある樹種（プラタナス、サワグルミ等）かつ、樹形不良（C 評価木）
持続可能な管理 大径木化や周辺施設（架線等）との競合により健全な生育や樹形や景観が維持できなくなると想定される区間		大径木化	平均樹高と目標樹高のギャップ率 120 % 以上※（平均樹高／目標樹高） ※樹木形状のバランスが悪い
		樹形不良	樹形評価 C 評価木（樹形不良）の路線
		過密化【植栽間隔】	目標樹形を踏まえた望ましい植栽間隔＞現況植栽間隔（現況の植栽間隔が望ましい植栽間隔より小さい）
		樹高制限【架線】	架線の有無：架線あり

再整備・保全　評価基準

①安全な構造･植栽基盤
- 適正な歩道構造（有効幅員･植栽桝形状等）の確保
- 根上りによる通行支障の発生の有無

有効幅員 2 m未満　通行支障あり → 再整備が必要【撤去･更新】※

有効幅員 2 m以上　通行支障なし → ②

②健全な樹木
- 生育不良による倒木･落枝リスクの有無
- 倒木リスクの高い樹種等の有無

あり → 再整備が必要【更新】

なし → ③

③持続可能な管理
- 巨木化･樹形不良･過密化･樹高制限の有無

あり → 再整備が必要【更新】

あり → 保全が必要【剪定･間伐･補植】

なし → 現状維持

再整備が必要【撤去･更新】※／再整備が必要【更新】 → 路線タイプ毎の目標とする姿･沿道情報（緑化重点地区等）を考慮 → 再整備手法（案）の選定

保全が必要【剪定･間伐･補植】 → 路線タイプ毎の目標とする姿･沿道情報（緑化重点地区等）を考慮 → 保全手法（案）の選定

※プランター･地被類

再整備･保全　評価フロー

5-4 適用工種・導入樹種の検討　タイプ区分毎の目標や管理を踏まえ、適用工種や更新樹種を検討します。

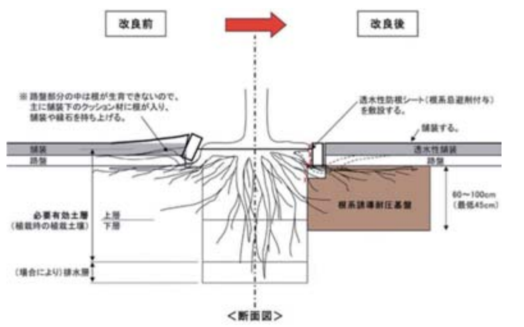
区分	常緑・高木			落葉・高木		
樹種（科名）	クスノキ（クスノキ科）	シラカシ（ブナ科）	ヤマモモ（ヤマモモ科）	ケヤキ（ニレ科）	アメリカフウ（フウ科）	イチョウ（イチョウ科）
写真						
樹高	30m	20m	15m	30m	20〜30m	30m

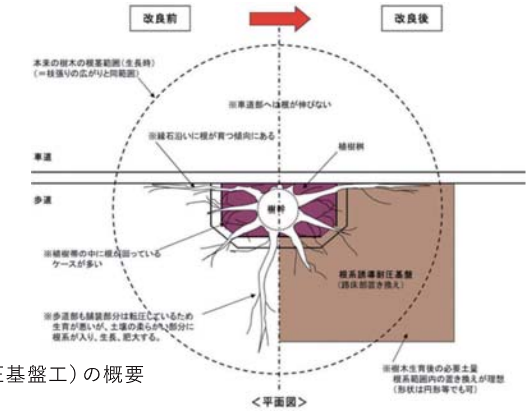
補植時の植栽種一覧（高木※：樹冠を大きく管理できる樹種）

区分	常緑・中木				落葉・中木
樹種（科名）	トキワヤマボウシ（ミズキ科）	ヒメユズリハ（ユズリハ科）	キンモクセイ（モクセイ科）	フェイジョア（フトモモ科）	シデコブシ（モクレン科）
写真					
樹高	5〜7m	5〜7m	2〜5m	1〜3m	2〜3m

更新・補植時の植栽種一覧（中木※）

※福山市では架線が設置されている路線が多いため、架線の高さ（6m 程度）を参考にして成木の樹高別・形態別に分類
「高木」は、成木の樹高 6m 以上の樹木
「中木」は、成木の樹高 3m〜 6m程度の樹木





根上り対策（根系誘導耐圧基盤工）の概要

5 街路樹再整備計画

5-5 再整備・保全対策工の選定

タイプ区分や目標、道路特性等を踏まえ、対策工を選定します。

再整備・保全	手法	対策工	区間数（修正案）	
再整備	①撤去・更新 ※1・2	撤去	41	46
		更新（プランター・地被類）	5	
	②更新	更新（高木、中低木）	6	44
		更新（高木、中低木、プランター・地被類）	4	
		更新（中低木）	26	
		更新（中低木、プランター・地被類）	8	
保全	③剪定	樹形作り直し（剪定）	12	21
		樹高制限（剪定）	9	
	④間伐	間伐	29	29
	⑤補植	補植（高木、中低木）	12	16
		補植（高木、中低木、プランター・地被類）	0	
		補植（中低木）	3	
		補植（中低木、プランター・地被類）	1	
現状維持			13	13
合 計			169区間	

※1：郊外部で歩道交通量が少なく、緊急輸送道路・重要物流道路等に指定されている区間において、防災機能や交通安全機能が重視される場合は、現状維持等も検討する。
※2：地域要望がある場合は、一部区間の撤去や現状維持等も検討する。

再整備・保全対策工の選定

5-6 再整備実施優先度の設定

評価基準や沿道情報等の点数比較により再整備実施優先度を検討します。

優先度	路線名	道路情報 歩道有効幅員	植栽情報 植栽形式	植栽情報 高木樹種	再整備手法に係る対策工
1	福山駅箕沖幹線	2m以上 3m未満	高木	プラタナス、サワグルミ	更新（中低木）
	御幸地吹幹線	2m以上 3m未満	高木	アメリカフウ、ヤマボウシ、イチョウ	更新（中低木、プランター・地被類）
	福山駅箕沖幹線	2m以上 3m未満	高木	イチョウ、クロガネモチ、クスノキ	更新（高木、中低木、プランター・地被類）
	福山駅南手城幹線	3m以上 5m未満	高木	ケヤキ、サクラ、アメリカフウ	更新（中低木、プランター・地被類）
2	千田一文字幹線	2m以上 3m未満	高木	プラタナス	更新（中低木）
3	千田一文字幹線	3m以上 5m未満	高木	プラタナス	更新（高木、中低木）
	南今津松永幹線	2m以上 3m未満	高木	アメリカフウ	更新（中低木）
4	千田一文字幹線	2m以上 3m未満	高木	プラタナス、アメリカフウ	更新（中低木）
	南松永松永幹線	2m以上 3m未満	高木	プラタナス、ヤマボウシ、クスノキ	更新（中低木）
	伊勢丘幕山台幹線	2m以上 3m未満	高木	サワグルミ	更新（中低木）
	引野引野南幹線	2m以上 3m未満	高木	サワグルミ、プラタナス、ハナミズキ	更新（中低木）
	千田一文字幹線	3m以上 5m未満	高木	クスノキ	更新（中低木）
	三吉入船幹線	2m以上 3m未満	高木	クスノキ	更新（高木、中低木）
	草戸松浜幹線	2m以上 3m未満	高木	クスノキ	更新（中低木、プランター・地被類）
	今津南松永幹線	2m以上 3m未満	高木	アメリカフウ	更新（中低木）
	福山駅旭町線	2m以上 3m未満	高木	クスノキ、ヤマボウシ	更新（中低木、プランター・地被類）

実施優先度（再整備・更新）抜粋

5-7 再整備による効果

本計画の着実な推進による効果として以下が挙げられます。

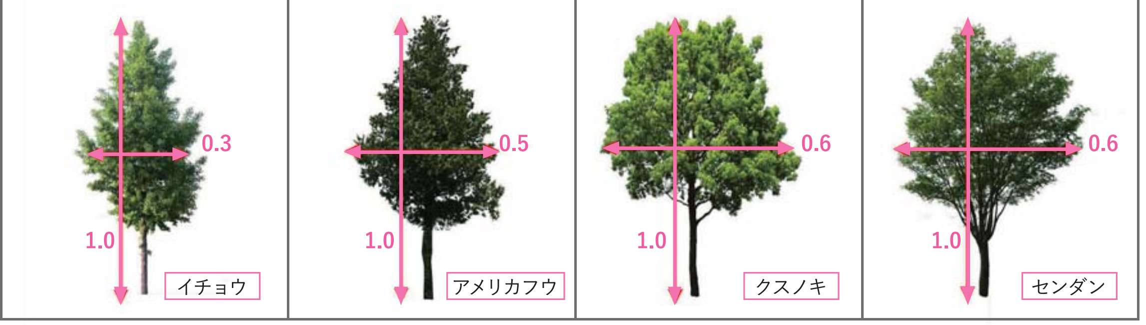
- 歩行者や車両が安心・安全に通行できる良好な道路・歩行空間が確保される。
- 地域特性に応じたみちづくりが進む。
- 主要な路線については市の価値向上やブランディングにもつながる美しい景観が創出され、市民が誇れる福山らしい魅力的な街路樹空間が形成される。
- トータルコスト（維持管理コスト含む）の節減に繋がるとともに、街路樹の健全な生育が持続する。

6 持続可能な管理手法

再整備後は、適正な管理を持続的に行い、街路樹が健全な生育を維持し、求められる機能・役割を発揮できるようにします。

6-1 目標樹形設定と管理（剪定）方針

目標樹形を設定し適切な剪定管理を実施します。

樹形	円錐形	卵円形		盃形
望ましい樹高・枝張り比※	0.3～0.4（0.3）	0.4～0.7（0.5）	0.5～0.7（0.6）	0.5～0.7（0.6）
主な樹種	イチョウ	アメリカフウ、プラタナス、ハナミズキ、サワグルミ、クロガネモチ	クスノキ	センダン
イメージ図				

※W/H W：伸長可能な枝張り H：望ましい樹高

目標樹形の設定例

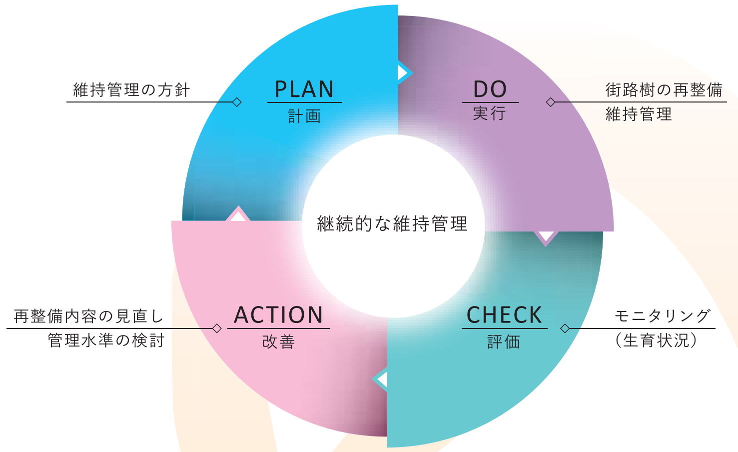
6-2 点検（予防保全型管理）

再整備以外の街路樹には定期的に点検を実施しています。

樹木点検イメージ

6-3 フォローアップ

PDCA サイクルにより適宜計画の見直しに反映していきます。



フォローアップサイクル

7 今後の事業推進

街路樹は市民の身近にある緑の空間であり、美しい景観をつくるまちの顔です。これらを市民の貴重な財産として次世代に引き継いでいくため、市民・企業・行政が一体となって、街路樹の利用・安全・管理の視点から「市民協働・企業連携」の取組を進めます。

福山市における既存の市民協働活動

利用 街路樹空間の積極的な活用促進
安全 道路・歩道利用における安全性向上
管理 市民・企業の参加による街路樹管理

- 既存活動の促進・補助や既存制度の活用・拡充による効率的取組
- モデル事例を通じた意識向上による市民・民間主体活動への展開
- 若い世代の取込みによる持続可能な維持管理の仕組みづくり